

# チェーホフ、ラップで歌おう



「チェーホフフェスティバル」の出演者らとともに記者会見に臨む中野さん（前列右から2人目）と作曲の大谷さん（前列の右端）（あうるすぽっと提供）

ロシア古典をラップで歌おう。豊島区東池袋の区立劇場「あうるすぽっと」がこの秋、ロシアの劇作家チェーホフの代表作「かもめ」を題材にラップを作り、ライブ形式で上演するというユニークな公演を企画している。公演は9月30日～10月3日で現在、ラップを歌う10～20歳代のメンバーを募集中。同劇場は「チェーホフに触れたことのない人も、一緒に楽しく楽しめる公演にしたい」としている。（蒔田一彦）

## 「かもめ」9月末公演

メンバー募集  
5月11日まで

今年にはチェーホフ生誕150年にあたり、同劇場では12月まで、チェーホフにちなんだプログラムを順次上演する「チェーホフフェスティバル2010」を開催。「チェーホフは、シェイクスピアと並ぶ名劇作家。若者にチェーホフ作品の面白さを知ってもらおう」と、同劇場のプロデュ

ーサーらが、古典の名作のラップ化という大胆な企画を考えた。

「かもめ」は、湖畔の別荘地を舞台に、劇作家と女優という夢を目指す2人の若者を軸に複雑に絡み合う人間関係を描いた戯曲。

ラップ曲は、シェイクスピア作品など古典の大胆なアレンジで知られる演出家・中野成樹さんが作詞、音楽家の大谷能生さんが作曲を担当し、計約10曲を書き下ろす。

主人公が、思いの通わないヒロインに、撃ち落とし、たカモメを届ける場面に着想を得た曲では、△まだ若い△くだらない△Dead or alive △いちやっぺない? △みつめあい △かもめの 血は赤い△などと軽快にラップを歌う。

今回の公演では、舞台上にライブハウスを作り、劇のために結成するラップユニット「みずうみ」がライブを繰り広げる。ユニットはメンバー5～7人程度の予定で、ラップに自信のある16～25歳の男女を一般から募集する。

中野さんは「新しい才能を発掘し、劇場やチェーホフに対する堅いイメージを打ち破るものを若者と一緒に作り上げたい。劇場と若者をつなぐ接点になれば」と話している。

メンバーの受け付けは5月11日まで。書類選考やオーディションを経て決定、6月中旬からリハーサルを始める。8月末頃にはレコーディングも行い、CD化する予定。問い合わせは同劇場（03・5391・0751）へ。